

第3回 ふくしま新ステージ有識者懇談会議事録

- 1 日 時 令和元年11月14日(木) 午後2時～午後4時2分
- 2 会 場 福島市役所 4階 市長応接室
- 3 出席者 伊藤宏会長、岡野誠委員、菅野廣男委員、木下真理子委員、齋藤美佐委員、高橋満彦委員、高橋理里子委員、西内みなみ委員、三宅祐子副会長
- 4 欠席者 菅野孝志委員、高谷理恵子委員、安田信二委員、渡邊博美委員
- 5 内 容
- 第3回懇談会(司会:政策調整課長)
- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 議事(議長:伊藤会長)
- ①第2回懇談会の振り返り
- 議 長 事務局に説明を求める。
- 事 務 局 資料により説明。(ふくしま新ステージ有識者懇談会【第3回】(パワーポイント)P3)
- 議 長 ただいまの説明について、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。
(特になし)
- ②総合計画Yu・Me(ゆめ)会議の活動状況
- 議 長 事務局に説明を求める。
- 事 務 局 資料により説明。(ふくしま新ステージ有識者懇談会【第3回】(パワーポイント)P4～P6、第1回～第5回 総合計画Yu・Me(ゆめ)会議 参加者からのキーワード(資料1))
- 議 長 Yu・Me(ゆめ)会議に全5回参加した委員に感想を求める。

委員 100人くらいの人が1グループ6人くらいのグループに分かれるが、回を重ねるごとに、だんだんと顔見知りになり、交流が生まれてきた。

最終回の「未来の新聞」を作るというのが面白かった。それまでは、具体的なイメージをインスピレーションで出てきた言葉で紡ぎ出されていた感じが、「未来の新聞」に落とし込むことによって、自分たちの暮らしが、どうありたいかというイメージをもって新聞を作っていた感じがした。

議長 5回目のYu-Me（ゆめ）会議に参加した委員に感想を求める。

委員 皆さんが熱く意見を交わしている、それを楽しんでいると感じた。すごくいい場だと思った。逆を言えば、市民の方達が、意見を言う場がないのかなとも思った。あのような場を設定したことで、皆さんが熱く議論、意見を交わすことができたのかなと思う。

皆さんが作った新聞の講評をさせていただいたが、2年先、5年先、今すぐ変えていってほしい身近に迫っている問題、子育て、高齢化、人口減少、台風19号を受けての防災力の強化や災害に強いまちづくりといった福島市に早く取り組んでもらいたいものがすごく盛り込まれていて、あのような場でそれが出てきたことがすごく印象的だった。

議長 今のご感想も含めて、事務局の説明について、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。

議長 「未来の新聞」の実現可能性はどれくらいなのか。

委員 各紙様々だが、子育て支援日本一、高校・大学まで学費無料、お年寄りが安心して暮らせるまち、大規模災害での犠牲者ゼロ更新・全国の自治体でも福島市が最長といったような見出しがあり、たぶん切実な思いだろうと思った。

委員 共感した新聞記事にシールを貼っていった。見出しに対してシールが多いほど共感者が多いということになる。シールが多かったのは、どの辺りの新聞なのか。

事務局 年間観光客数1000万人！といった観光面、福島駅前でG20開催といった夢のあるところにシールが多かった印象を受けている。また、子育てといった身近なところにもシールが多かった。皆さんにいい記事をたくさん書いていただいたこともあり、まんべんなくシールが貼られていたというのが実態としてある。

委員 何をするにしても人が一番大切なファクターであると思う。そのためにも、現在の合計特殊出生率1.4が、できる限り2を超えるものになってほしい。そのためには何をすべきか。子どもを産むと大変なのは、働いている間、子どもをどうするかだと思う。晩婚化という問題もあるのかもしれないが、待機児童や育児支援がしっかりしていれば、子どもを産んでもいいかなという気持ちになるのではないか。子どもを増やさないことには、すべての指標が上がらないのではないかと思うので、知恵を出して、合計特殊出生率を2に近くできればいいと考えている。

③「将来構想」及び「基本方針」の策定に向けた協議

議長 事務局に説明を求める。

事務局 資料により説明。(ふくしま新ステージ有識者懇談会【第3回】(パワーポイント) P7～P11)

議長 まず、将来構想について、ご意見・ご感想をいただければと思う。

委員 すごくいいキャッチコピーだが、誰に向けて発信しているのか。学生に「唯一無二」といったときに、残念ながら分からないだろうと思う。他の文言は、小学生でも分かるものであり、対象を幅広く想定したキャッチコピーになっていると思う。

事務局 基本的には市民向けだが、◎については、「世界にエールを送る」といった表現を使わせていただいております、市民だけではなく、国内はもとより世界に向けて発信していきたい意味を込めている。

市長 キャッチフレーズの要素は、市民が共有できることが一番大事なことである。そのために市民向け、私たちがこういうまちを目指しているということを外にも分かるようなものにする必要があると思っている。

議長 その他いかがですか。

委員 ◎の復興からの飛躍というのは、10年先を見据えた構想といったときに、10年後、復興という言葉がどのように受け止められているのかということを考えると、復興という言葉はなくても、復興の先を見据えた新たな創造のようなニュアンスが取ればいいのかと思う。

市長 今回のキャッチフレーズは、市民がこういうまちにしたい、やりたい姿を最初にもってきた上で、私たちの姿が、よそから見たときにどのように見えるのかということを意識した表現を加えた、二段階構成で作ることができないかと思っている。

行政に与えられてまちができるのではなく、市民と行政が一緒になり、みんなで作ってすばらしいまちができるというものを描いて、次にそれが外へのメッセージに繋がれば良いと思う。

議長 主体的に自分がキャリアを選択できる、そういう人間になる必要があり、全部受け身でやられている感、使われている感ではいけない。それは多分、行政と市民との関係も同じで、市はこうしてくれるから待ってれば良いというわけではなく、市民が行政に対していかに主体的に訴えることができるか、変えるよう働きかけることができるかという側面が非常に大事である。福島市民は気質を含めて、そういうような能力、ポテンシャルを持っていると思う。ジェントルマンが非常に多いまちなので、市民と一緒に作っていくというキーワードは福島市では非常にふさわしいのかなと思う。

将来構想に挙げるべきことなのか、基本方針に入れるべきことなのかということもある。より具体的なことが基本方針ということになるのかもしれない。

委員 ①②③とも、してもらおうという発想が強い。第五次の基本方針で市民との協働のまちづくりがあるのだったら、「市民による、市民のための、市民がつくるまち」とか、市民の主体性、官民協働のまちづくりみたいなところを、みんなで協働してつくる福島市のような感じのものがあってもいい。②と③は重複しているような気がする。

委員 市民と行政と共につくっていくものということで、協働の指針を策定して、みんなで取り組んでこれまでもやってきた。その成果も数々あるとは思う。どんなことに向けて私たちが協働してこのまちをつくっていけるのかがここに盛り込まれれば良いと思う。

止められない人口減少もあって、世界というキーワードが出てきていると思う。世界から見た福島市、日本から見た福島市というときに、他から見たときの福島市のポジショニングが推し量れるような総合計画を作っていくための将来構想になってくると思う。10年というスパンで世の中どう変わっていくのか分からない。10年後もこの将来構想、キーワードが使えるような、抽象的であり、柔軟性を含んだキーワードでまとめたらいいのかなと思う。今、具体的な意見が出ているが、それについては基本方針でしっかりと押さえていくという二段構えにな

っていたと思うので、みんなが理解しやすい抽象的なものにしたほうが良いと思う。

委員 この8年間、行政も市民も子どもも放射能等の問題について、努力をして今日を迎えたものと思っている。それを歴史経過のなかでも残していきたい。㉔の復興からの飛躍というのは、ただの災害ではなく、放射能の問題のなかでの福島であり、多くの苦労があって今日を迎えているので、そのことをきちんと捉えて将来構想に含めてほしいと思っている。基本方針の①にも同様の表現があるが、将来構想と基本方針が連動できるような言葉にしてほしい。すごい災害を乗り越えて今日を迎えているので、そのことをきちんと市民にも理解していただいて、世界にも発信できるようなものにしてほしいと思う。

委員 今回の台風19号も加えて、福島の大変さはよく知られていたもので、㉔はあってもいいのかなと思う。まちとしては、たくさんのエールを世界に送れると思っているので、ぜひ大きな声でエールを送れるような状態にしていきたい。

議長 将来構想に盛り込むのか、基本方針に盛り込むのか難しいところではある。逆に基本方針のほうを考えて、それを束ねるような将来構想を作るというやり方もあり得ると思うので、いったんこれは置いといて、基本方針レベルで考えてご意見をいただければと思う。

委員 ①の原子力災害、これはいいが、オリンピックを一つの境として、世界の潮流を見ると、テロが非常に頻発するのではないかと思う。原子力テロもあるわけだが、それ以外のシーバーン対策も将来的には必要になるのではないかと思う。

②の誰にでもやさしいまちについてだが、障がい者、外国人、これは多様性を認めるということだと思う。どんどん外国の方が福島市に住むということになると、日本人と外国人の結婚等が増えてくる。西暦3000年頃には純粋な日本人がいなくなると未来の年表に書いてあったような気がした。多様性を認めるということはそういうことなのかなと思う。

③のにぎわいについてだが、高齢者が買い物に行って、荷物を持って歩くのは大変である。だったら、AIを使って自動運転のできる車があればいいと思う。夢物語だが、官民一体になってそういう車を開発できればいい。

委員 ③にある若者と女性の活躍についてだが、若者が活躍するためには、福島市に就職先がないと難しいと感じる。今、人手不足なので、企業としては、ものすごく人を欲しがっているが、充足できないでいる。採用してもなかなか定着せず、

早期離職してしまい苦勞している。若者に聞くと、福島で就職したいという意識を持っている方達は結構いるが、賃金のバランスや仕事の内容等でなかなかマッチングせず、県外に目が向いてしまっていることが一つ課題なのかなと感じている。

女性の活躍というワードに関しても、女性が働いていく上で、待機児童の問題や病児・病後児保育の問題が出てくるが、子どもの具合が悪いときは、お父さんやお母さんがきちんと会社を休めるといった企業風土、地域性というのが、病児・病後児保育を充実させるよりも大切ではないかと強く感じている。そういったところも少し取り上げてもらえればと思う。

議長 子どもを重点にするのか、高齢者を重点にするのか、財源に限りがあるので、その辺のプライオリティ、取捨選択は、行政としては必ずやらなければならないことである。

②の誰にでもやさしいまち、本当はそれが一番だが、今の財源で果たしてそれができるのかというと、なかなか難しい。②の基本方針を施策にするように言われても、何を重視すればいいのか、なかなか見えにくいということがある。

②の誰にでもやさしいというのはすばらしいが、そのなかでも、福島市はこういうところを大事にしますというような、基本方針をもう少し具体的なレベルを考えていかないと絵に描いた餅になってしまう可能性がある。

委員 今後の全体の方向性として、成長社会から成熟社会にシフトしていく流れがあると考えている。成熟社会は、それぞれの価値観、多様性のある暮らしを求める社会になっていくと思っている。

例えば、人口減少や少子化の問題に関しても、その社会的な問題と個人の幸せは別にあるのではないか。子どもを産まなければならない、子どもはたくさんいたほうがいいのかというのは社会的な問題の解決であり、一方、一人ひとりの幸せということを考えたときに、産まないという選択肢も与えられて当然である。個人個人の幸せは、市の繁栄や価値に繋がっていくので、その辺の見極めが重要だと思う。今後、多様性が求められていくなかで何を重点にするのかというのは、難しい問題である。みんなが、それぞれに持っている価値観なので、市がこれだと言いつけるのはすごく難しいと思う。

委員 子どもを産みたいと思っている方が、産みたいときに産める環境をとということ強く伝えている。産みたいと思っている方が、産みたいときに産むということには、女性のキャリアが関わってくる。これだけ女性の社会進出が進んでくると、産むタイミングと自分のキャリアパスを天秤にかけて、産みたいときに、産めな

い女性が増えてきていることも事実である。そうなるとう医療の問題になってくる。女性は生物学的に産める期間が限られている。自分のキャリアを優先して、ある程度の立ち位置になり、産もうと思ったときに、自然妊娠が難しいタイミングなっていると、不妊治療で経済的な負担やメンタル的な負担が増えて、悪循環になる。ものすごく広い意味で、産みたい人が、産みたいときに産めるような福島市になればいいというメッセージ性を強く出してもらうと、それが結果として、人口減少に対しての課題を解消していくものになっていくのではと考えている。

委員 バランスよく網羅していると思ったが、総論的になってしまっている。第五次の重点施策があるが、ある意味焼き直しのなものにもなっている。もう少し具体的な形でカラーを打ち出したほうがいいのかと思う。福島市は将来こういうまちをつくっていくというカラーを打ち出していけば、将来構想に入れたほうがいいのかと思うし、基本方針にはもう少し具体的なものを入れたほうがいいのかと思う。

議長 常に人口減少社会を何とかしなければならないという話があるが、これから福島県の人口が増えるということは、なかなか難しいと思う。ただ、自治体ごとを考えると、案外増えるところもあるかもしれない。全国に2,000くらいの市町村がある。おそらく昨年度の調べだと思うが、そのなかで人口が増えた市町村が400ぐらいあったはず。悪い言い方をするとサバイバルであり、他の自治体からいかに人口を集中できるかということ。取られたところは当然衰退していく。いかに魅力的なまちをつくっていくかということで競争が起こっていく時代にならざるを得ない。全国の市町村が同じように人口減少するわけではない。日本全体であれば、東京、首都圏の人口は相対的に増えている。東北を考えると、仙台市が相対的に増えている。福島県を考えると、郡山市は相対的に増えている。人口減少を踏まえた政策であり、提言しなければならないというのも一つの考えとしてあるが、福島県の人口が減ったとしても、福島市という自治体だけを考えれば、人口を増やすことは不可能ではない。人口を増やすというぐらいの勢いのある基本方針や提言を一つぐらい盛り込まないと夢がないのかなという印象を受けた。

議長 産業を創出しても、従業員が単身赴任できて、土・日はみんな帰ってしまい、お金は全部首都圏に戻っていくようではいけない。家族持ちの方は、家族で生活をして、子育てもしたいと思ってもらえるようなまちにしていかないと、空中にお金がきて、飛んでいくという部分になる。

福島市で安心して子どもに教育を受けさせられるという環境が整えば、単身赴任でなく家族を連れてきてくれるのかなと思う。

委員 ⑤の歴史や文化の薫り高い環境と調和するまちだが、アフリカのほうも含めて世界41ヶ国、243,000の方が花見山にきてくれた。そういうことを含めたなかでの花の観光である。花だけでなく、生活の匂いがする、そしてなお、小鳥がさえずり、川のせせらぎがあるというのは他のところにはない花の観光花見山である。

交流人口を増やすには、将来にわたって観光だと思っている。これからも特徴を生かした、歴史や文化を大事にしてほしいと思っている。なお一層、花との連携、花街道を注視しながら、花見山の周辺整備を含めて重視していくと交流人口が増えるのかなと思う。

議長 ⑤は網羅的になっているが、もう少し観光等に包括してもいいのかなという気がする。観光資源としてリソースはすごくいいものを持っているので、それを大切にしながら、いかに観光客、インバウンドをもってこられるかである。

委員 第五次の基本的な考え方には、市民との協働のまちづくりというのがあった。あとの施策に入ってくるのかもしれないが、今次だとそれが目に見えなくなってしまっているのが残念でならない。Yu-Me（ゆめ）会議に参加して、学生が初めて市政に参画しながら様々な未来事に関わっていくことで、この学生は定着する、定住するという予感がする。当事者性を持たせるためには、参画させないと結局「自分のまち」にならない。

一番残念なのは、18歳人口で7,000人が県外に出ていく実態であり、福島市もその影響を受けているはず。何とか18歳になる前に、子どもたちにこのまちが自分たちのまちだという当事者性を持たせるような取り組み、市民が参画する、市民と協働するまちづくりを基本政策にして大きく旗を振らないと、せっかくすばらしい動きが市内で起きているのに、それが弱くなってしまう。

議長 市民、子どもからお年寄りまで、まちづくりや将来構想に参画するという当事者意識がこれからも続くと、責任感も生まれ、そこに住む、そこに居ようという気になる。

委員 誰かがしてくれるのではなく、私が変わるという意識が重要である。

議長 「私が変わるまち福島」とか。教育面でも勉強ができるようになればいいかということではない。勉強のための勉強ではなく、いろんな課題等、問題意識を持って、それを解決するために勉強しようという好循環になる必要がある。そうい

う意味では、今回のYu-Me（ゆめ）会議を含めて、こういうことをずっと継続していくと、子どもたちは教育も伸びるし、郷土を愛する気持ちも強まると思う。

委員　それが義務教育の年齢であっても、大学生であっても、福島市は自分たちがやりたいと声を上げれば、やらせてもらえる、そのチャンスが巡ってくるのが福島市という意識を持ってくれると、ここで挑戦してみたいという気が出てくると思う。それを誰に言ったらいいのか、どのように声を上げたらいいのか、年齢が低くなればなるほど分からない。そこをうまく吸い上げられるような形になってくると、今話をいただいたようなことが、どんどん出てきて当事者意識をもって定着してくれるのではないか。逆に、自分たちからいろいろなことを提案してイノベーションを起こしてくれるのではないかとすごく期待感を持つことができる。

議長　基本方針よりもむしろ将来構想なのかもしれないが、チャレンジという言葉が入っていてもいいのかなと思った。皆さんの意見を集約すると、市民一人ひとりが、それぞれの夢や幸せにチャレンジできるまちということなのかなと思う。まちによっては、市民一人ひとりよりも、産業や商業に重点を置くところもあるが、市民がそれぞれの幸せにチャレンジできるということは、そこに存立する企業やまちの活性化することに繋がると思う。

委員　市内にいると何がいいのか案外見えない。市外からきた方々の意見をいただく機会を来年のYu-Me（ゆめ）会議で作ったらどうか。

委員　市外から来た方を案内するとき、福島市は何もないとよくいうが、歴史もありそんなことはない。

議長　基本方針について議論いただいた。一つは、子ども、子育て、教育を含めて別立てにしたほうがいいのかという意見があったと思う。

多様性をどのように盛り込めるのか、多様性は将来構想に譲ったほうがいいのかはよくわからないが、その観点も重要であり、一人ひとりがチャレンジする、市民が当事者意識を持って参加するという視点が必要である。花見山に代表されるような、自然、観光資源を活用した観光促進ということも重要であるという話があった。

原子力災害という言い方をするかは別として、3.11の問題と、台風19号を含めた防災、災害に強いまちづくりも入れたほうがいい感じがした。

これらを踏まえて、将来構想はどのようなものがあるのかということになる。どこの市でもありそうというのはある意味つまらない。福島市のオリジナリティ

が何らかの形であったほうがいい。

何らかの形で、知らない人が福島市と言わなくても、福島市と分かるようなフレーズ、キーワードがあるといいのではないか。

市長 将来構想は行政の基本指針であり、10年ごとに作る分だけ時代性、方向性を出さないといけない。福島市らしさを出していきたい。

(4) 今後のスケジュール

事務局 第4回懇談会の日程について説明。

- ・日時 令和元年12月25日(水) 午前10時～午前11時30分
- ・会場 福島市役所 4階 市長応接室

(5) 閉会